

ちばの地域福祉

「温故知新」

千葉県中核地域生活支援センター大会実行委員長
千葉県中核地域生活支援センターひだまり センター長
香田 道丸

2024年、千葉県中核地域生活支援センターは20周年という節目の年を迎えます。これもひとえに、地域福祉の向上に尽力された関係者の皆様のご尽力のおかげと、深く感謝申し上げます。

そして、この記念すべき年に、千葉県における地域福祉の歩みを振り返り、未来への展望を語るにあたり、千葉県を先駆的に牽引された堂本暁子元千葉県知事の「健康福祉千葉方式」と、中核地域生活支援センターの果たした役割について所感を申し述べさせていただきます。

2001年から2009年まで千葉県知事を務められた堂本暁子氏は、「誰もがありのままにその人らしく地域で暮らす」という理念を掲げ、「健康福祉千葉方式」を推進されました。これは、縦割り行政を打破し、県民一人ひとりのニーズに即したオーダーメイド型の福祉サービスを提供することを目指したものです。

具体的には、障害者、高齢者、子どもなど、対象者横断的な施策を展開し、地域福祉計画や障害者計画策定において、当事者や地域住民の意見を積極的に取り入れるなど、画期的な取り組みを数多く推進されました。地域の意見を拾い上げるため、各地で開催されたタウンミーティングでは、当時、福祉の何たるかも良く分かっていなかった自分が、知事に食って掛かるように質問した赤面の瞬間が思い出されます。

こうした堂本元知事の理念を受け継ぎ、具体的な支援体制を構築したのが、中核地域生活支援センターです。2004年に設置された中核地域生活支援センターは、地域住民の身近な相談窓口として、介護保険、障害福祉サービス、医療、就労、子育て支援など、幅広い分野における情報提供や総合相談、権利擁護、コーディネート支援を行ってきました。

また、関係機関との連携を強化し、福祉ネットワークの構築を推進することで、地域福祉の総合的な支援拠点として、重要な役割を果たしてきました。

中核地域生活支援センター設立から20年が経過し、千葉県の地域福祉は大きく進歩しました。しかし、高齢化の進展や障害者を取り巻く環境の変化など、新たな課題も生まれています。こうした状況を踏まえ、今後も地域住民のニーズに柔軟に対応し、さらなるサービスの質の向上を目指していく必要性を感じています。

堂本暁子氏の「健康福祉千葉方式」の精神を受け継ぎ、今後も中核地域生活支援センターは、千葉県における地域福祉の中核としての重要な役割を担っていきます。地域住民一人ひとりが、自分らしく安心して暮らせる社会を実現するため、一丸となって取り組んでまいります。

20年の節目を迎えるにあたり、改めて皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

佐倉南高校

〈印旛圏域〉

印旛圏域の中核地域生活支援センター事業を受託しています「いんば中核地域生活支援センターすけっと(以下、すけっと)」です。

すけっとでは、令和5年度から千葉県校内居場所づくり事業を受託しています。開催している高等学校は千葉県立佐倉南高等学校(以下、佐倉南高校)です。佐倉南高校には現在、定時制(3部制)、印旛特別支援学校さくら分校の生徒さんが在籍しています。定時制には外国ルーツの生徒さんも多数在籍されています。

校内居場所カフェは「さくカフェ」と名付け、月一回のペースで開催しています。開催にあたっては、佐倉南高校の先生方の他、以前から地元で食支援活動をしている支援団体である「寺崎食堂」と協働しています。主な活動は食料配布と居場所づくりを行っています。

さくカフェを協働で開催するにあたり、目的を以下のとおり整理し共有しました。

- ① 生徒にとって安心して過ごせる時間と場所を提供する。
- ② 食を通じて、生徒たちが、生徒たちをよく見てくれる大人(地域住民)と出会う場を作る。地域住民が佐倉南高校を知ると共に生徒たちも地域の仲間であることを感じてもらう。
- ③ 困難な状況にある生徒を早期に発見し福祉的な支援につなげていけるように気軽に相談できる場所とする。

上記を確認することで、新たに参加されるボランティアさんにも参加しやすくしています。

《校内掲示用チラシ》



さくカフェはこれまで主に定時制の夜間部の生徒さんを主対象に開催してきました。外国ルーツの学生さんも多数在籍しており、配布される食料も宗教に合わせたものも準備しています。居場所カフェではボードゲームやカードゲームなども準備し、学生さんと一緒に遊ぶ場を設けたり、ボランティアさんの演奏するギターに耳を傾けたり、同じ時間を共有しながらその中で日々の話を聞いたりしながら関わりを持っています。授業が終わってから部活の合間や、ちょっと立ち寄ってホッと一息ついてから帰宅する生徒さんもいます。

また、学校のスケジュールに応じて、開催時間に余裕がある時には、温かいご飯やおにぎりの提供をしたり、クリスマス飾りの製作を行い、賑わいを見せていました。

さくカフェの活動を重ねる中で学校側からも日々の暮らしに相談が必要と思われる生徒さんを紹介していただき、必要な支援に繋がった方もいました。



今年度は2年目の活動として、改めて生徒さんや学校さんのニーズの確認を行うこと、夜間部以外の生徒さんへの繋がり作りを模索することを検討しています。

これらの活動から、地域と教育と福祉の繋がりがより促進されるきっかけとなればと考えています。



生徒さんに配布しているチラシ

一般社団法人

マザーズ・コンフォート

こんにちは！一般社団法人マザーズ・コンフォートです。
私たちは千葉市若葉区で、産前産後、若年女性の支援活動をしている団体です。特にこの3年程は、若年の女の子の支援を中心にしています。虐待、家庭内の不調から家に居場所がなくSNSで知り合った男性の家を転々としたり、パパ活などを繰り返し、その日暮らしをしている女の子たちが増えていることを耳にするかと思えます。実際に千葉でもそのような女の子たちの相談が増えて来ていることを実感しています。

彼女たちのような女の子たちの多くは、大人への不信感があり自分からSOSを発信し支援につながることはほとんどありません。「待っているだけでは繋がらない」彼女たちにこちらから発信、つながっていくことが必要だと思い、考えたのが夜間の小さな居場所「ぐるぐるカー」です。

この居場所では直ぐに相談支援につなげるというより、今は必要なくても、いつか何かあった時に「そういえば、ここがあった」と思い出してもらえそうな、そんな場所でありたいと願って活動を続けています。

県立高校へのアウトリーチ活動



マザーズ・コンフォートの アウトリーチ活動の紹介



夜間のアウトリーチでは…

食材はもちろん、コスメ、衣類
アメニティグッズ、避妊具、妊娠検査
薬などにマザーズコンフォートのカード
を貼付して配布しています。
また、女の子たちに居心地よく過ごして
もらうためにプロジェクターで動画や音
楽を流したり、簡単にできるワーク
シヨップなどもしています。

千葉市内の県立高校へ出向き、校内居場所カフェや、校内ぐるぐるカーも行っています。

彼らが高校生活を送っている間、または卒業後、社会に出た後に何か困ったことが起こった際「ここがあった」と私たちのことを思い出してもらえようと行っている活動です。

定期的に行うことで、生徒さんだけではなく、先生方にも私たちの活動を知ってもらい窮地に追い込まれる前に、なるべく早い段階で相談に繋がってもらえるよう予防、周知を行っています。

～再犯防止 リレートーク～

千葉県における犯罪の発生件数は全体として減少傾向にあるものの、再犯者率は依然として高い傾向にあり、罪を犯した人の中には、様々な生活課題を抱えながらも、必要な支援を受けられないまま犯罪を繰り返してきた人がいます。

このため県では、矯正施設出所後や保護観察期間終了後に福祉的支援を必要とする人に対し、出所後の支援に繋げるため、在所中から面談などを行い、就労の機会の確保や、地域において切れ目のない生活支援を提供する体制づくりを進めてまいりました。

この取組の成果を基に、県では再犯防止推進計画を策定し、犯罪や非行をした人たちの円滑な社会復帰の支援などの施策を進めています。

この他にも、地域生活定着センターの設置や、新たに基礎自治体支援として市町村に対する会議や研修を開催するなど、再犯防止に関する取組を実施するとともに、保護観察少年の社会復帰を支援するため、法務省千葉保護観察所と「保護観察対象少年の有期雇用に関する協定」を締結したところです。

犯罪をした人が出所後、社会で孤立することなく、地域で支えられながら暮らしていくためには、行政、関係機関及び関係団体が連携し、息の長い支援を行うことが必要であると考えます。

引き続き、誰もが安全で安心して暮らせる社会の実現に全力で取り組んでまいります。

千葉県健康福祉部健康福祉指導課地域福祉推進班 班長 古宮 優

～センター紹介～ 長生ひなた〈長生圏域〉茂原市長尾2694 TEL 0475-22-7859

新茂原駅徒歩1分、駅チカの小さな事務所です。所長の愛車『おにぎり号』が目印です。

長生郡市1市5町1村の中核センターと自立相談を受託しています。長生圏域は2050年の人口推計が5割減となる自治体が複数ある高齢化と過疎化が課題の地域です。

昨年度はコロナ騒動にまつわる支援が落ち着きを見たことから、中核と高校の居場所づくり、学習支援や就労準備などを順次再開し、ようやく通常に戻りました。

4月1日、新年度にあたり、「基本の相談支援を丁寧に行う」こと、「個別の相談支援で地域の関係機関との連携を深めて協働する」こと、「それぞれの職員が目的を理解し、目標をもって取り組む」こと、を申し合わせました。

「今年度は改めて中(長生ひなた)のことに取り組みたい」と澁沢から所信表明があり、県内あちこちに出かけて語って飲むことは減るかもしれませんが(ということは恐らくありません)。

今年度は法人20年の節目です。初志、初心を忘れずに取り組みます。

